

<b>Title</b>	著訳者紹介
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, No. 47
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2197">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2197</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## 〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院大学アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、聖学院大学学長兼教授。その他荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

瀧井 一博 たきい・かずひろ

1967年(昭和42年)、福岡県に生まれる。90年、京都大学法学部卒。92年、同大学大学院法学研究科修士課程修了。98年、同研究科博士後期課程修了。博士(法学)。95年、京都大学人文科学研究所助手。97年から99年までウィーン大学法学部ドイツ・オーストリア法制史研究所にて在外研究。2001年神戸商科大学助教授。04年兵庫県立大学経営学部助教授。06年、同大学経営学部教授。07年より国際日本文化研究センター准教授(08年より総合研究大学院大学准教授を兼任)。

〔著書〕『ドイツ国家学と明治国制』(ミネルヴァ書房、1999年)、『文明史のなかの明治憲法』(講談社選書メチエ、2003年、角川財団学芸賞受賞、大佛次郎論壇賞受賞)など。

大木 英夫 おおき・ひでお

1928年生まれ。1956年東京神学大学大学院卒。1960年ユニオン神学大学(ニューヨーク)ドクターコース卒。神学博士。組織神学・社会倫理学専攻。元東京神学大学学長。東京神学大学名誉教授。現在、聖学院大学大学院教授。学校法人聖学院理事長。聖学院大学総合研究所長。

〔著書〕『ブルンナー人と思想』(日本基督教団出版部、1962年)、『ピューリタニズムの倫理思想』(新教出版社、1966年)、『ピューリタン——近代化の精神構造』(中央公論社、1968年)、『終末論的考察』(中央公論社、1970年)、『終末論』(紀伊國屋書店、1972年)、『現代人のユダヤ人化——現代文明論集』(白水社、1976年)、『キリスト入門』(ヨルダン社、1976年)、『歴史神学と社会倫理』(ヨルダン社、1979年)、『偶然性と宗教』(ヨルダン社、1981年)、『バル

ト』(講談社, 1984年), 『日本の神学』(共著, ヨルダン社, 1989年), 『主の祈り』(聖学院大学出版会, 1990年), 『新しい共同体の倫理学 基礎編』(上・下, 教文館, 1994年), 『日本は変わるか——戦後日本の終末論的考察』(共著, 教文館, 1996年), 『ローマ人への手紙——現代へのメッセージ』(教文館, 1998年), 『宇魂和才の説——21世紀の教育理念』(聖学院大学出版会, 1999年), 『時の徴——第三ミレニアムとグローバリゼーション』(教文館, 2000年), 『組織神学序説——プロレゴメナとしての聖書論』(教文館, 2003年), その他。

林 忠行 はやし・ただゆき

1950年生まれ。東京都立大学法学部卒。カレル大学哲学部史学科留学(チェコスロヴァキア政府奨学生), 一橋大学大学院法学研究科公法専攻博士課程単位取得退学。

広島大学法学部教授, 北海道大学スラブ研究センター教授・北海道大学スラブ研究センター長を経て, 現在, 国立大学法人北海道大学理事兼副学長。

〔著書〕『肅清の嵐と「ブラハの春」——チェコとスロヴァキアの40年』(岩波書店, 1991年), 『中欧の分裂と統合——マサリクとチェコスロヴァキア建国』(中央公論社, 1993年), 『東欧の歴史と民族問題』(広島平和文化センター, 1995年), 『連邦解体の比較研究——ソ連・ユーゴ・チェコ』(共著, 多賀出版, 1998年), 『講座スラブの世界(7) スラブの国際関係』(共編著, 弘文堂, 1995年), 『ポスト冷戦時代のロシア外交』(共編著, 有信堂高文社, 1999年)。その他編著として, *The Emerging New Regional Order in Central and Eastern Europe* (Slavic Research Center, Hokkaido University, 1997), *The Construction and Deconstruction of National Histories in Slavic Eurasia* (Slavic Research Center, Hokkaido University, 2003) など。

松谷 好明 まつたに・よしあき

1944年福島県生まれ。一橋大学社会学部卒。神戸改革派神学校に学んだ後(3年中退), 英国トリニティ・カレッジ・ブリストル神学校ならびにブリストル大学大学院(Dip.Th.)に学ぶ。Ph.D.(聖学院大学)。現在, 聖学院大学総合研究所特任教授(ピューリタニズム研究室長)。

〔著書〕『ウェストミンスター神学会議の成立』, 『ウェストミンスター神学会議議事録抄』, 『ウェストミンスター神学会議——その構造化』(いずれも, 一麦出版社), 『イングランド・ピューリタニズム研究』(聖学院大学出版会)。

〔訳書〕トマス・ブラウン『スコットランドにおける教会と国家』, 『ウェストミンスター信仰告白と今日の教会』(いずれも, すぐ書房), 『ウェストミンスター信仰規準』(一麦出版社), ポール・ヘルム『カルヴァンとカルヴァン主義者たち』(聖学院大学出版会), トム・ウィルキンソン『ウェストミンスター信仰告白註解』上, 下(一麦出版社), ジョン・デ・グルーチャー『キリスト教と民主主義——現代政治神学入門』(新教出版社)ほか。

茂 牧 人 しげる・まきと

1958年生まれ。上智大学大学院哲学研究科哲学専攻博士後期課程単位取得修了。青山学院大学国際政治経済学部専任講師をへて、2003年4月青山学院大学国際政治経済学部教授。2008年4月より青山学院大学総合文化政策部教授。

〔論文〕「ハイデガーの真理論と否定神学」(海津忠雄, 東方敬信, 茂牧人, 深井智朗『思想力 絵画で読み解くキリスト教』キリスト新聞社, 2008年), 「ハイデガーのシェリング論と否定神学」(ドイツ観念論研究会編『思索の道標をもとめて 芸術学・宗教学・哲学の現場から』萌書房, 2007年), 「傷による救いの神秘への信仰」(『理想』第678号, 2007年), 「ハイデッガーのヘルダーリン論と否定神学」(ハイデッガー研究会編『ハイデッガーと思索の将来——哲学への〈寄与〉——』理想社, 2006年)。

左 近 豊 さこん・とむ

1968年生まれ。学習院大学文学部史学科卒。東京神学大学大学院神学研究科博士課程前期課程修了(神学修士)。米国コロンビア神学大学院Master of Theology修了(Th.M)。プリンストン神学大学院Ph.D課程在籍中。現在、聖学院大学人間福祉学部副チャプレン。専攻は旧約聖書学。

〔論文〕「アモス書『諸国民への託宣』における文体の研究」『神学』第57号(1995年), 「ヨブ記におけるゴーエールとは?」(大野恵正他編『果てなき探求』教文館, 2002年), 「海のように深いあなたの傷を, 誰が癒せるだろうか? ——哀歌第2章の文芸学的研究」『聖学院大学論叢』第21巻(2009年), 「悲哀としての恥——哀歌第1章の文芸学的研究」『聖学院大学論叢』第22巻(2010年)。

〔訳書〕J・L・メイズ『現代聖書注解 詩編』(日本基督教団出版局, 2000年)。

柳田 洋夫 やなぎだ・ひろお

1967年生まれ。東京大学文学部倫理学科卒。東京大学大学院人文科学研究科(倫理学)修士課程修了。同博士課程中退。秋田県立湯沢高等学校・横手高等学校教諭を経て, 東京神学大学大学院博士課程前期修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。現在, 聖学院大学人文学部副チャプレン, 日本文化学科助教, 日本基督教団聖学院教会協力牧師。

〔論文〕「親鸞に学ぶ人間の罪・救済・愛」(持田幸雄・金丸和子編著『「心の教育」実践体系6 芸術・宗教に学ぶ心の教育』, 日本図書センター, 1999年), 「山路愛山における『共同生活』概念について」(『聖学院大学総合研究所紀要』第37号, 2007年), 「リチャード・ニーバーの責任倫理と日本人(上)(下)」(『季刊 教会』No. 68・69, 2007年), 「山路愛山の教育論」

(『キャンパス ミニストーリー』第19号, 2009年)。

〔訳書〕 コリン・E・ガントン 『説教によるキリスト教教理』(教文館, 2007年)。

藤原 淳賀 ふじわら・あつよし

1965年岡山市生まれ。University of Durham (England), Ph.D.; Golden Gate Baptist Theological Seminary (U. S. A.), M.Div.; 慶應義塾大学大学院, 教育学修士。東京基督教大学専任講師を経て, 聖学院大学総合研究所准教授。キリスト教神学, 倫理学。2010年4月より聖学院大学総合研究所教授。

〔著書・論文〕 “Theology of Culture in A Japanese Context: A Believers’ Church Perspective,” “The Challenge of Yoder and Hauerwas’ Theology in the Japanese Context,” “H. Richard Niebuhr and John Howard Yoder: Theology of Culture,” 「キリスト教と戦争：歴史的概観と今日の課題」, As a Consultant Editor, 2006, *The New Lion Handbook: Christian Belief*, General Editor, Alister McGrath, Oxford: Lion Hudson Plc.

坂本 ひとみ さかもと・ひとみ

1980年東京大学教養学部教養学科イギリス科卒。1986年東京大学大学院英語英文学専攻博士課程単位取得満期退学。一橋大学, 東京大学の非常勤講師を経て, 現在, 東洋学園大学教授。日本児童英語教育学会会員, 小学校英語教育学会会員, JALT会員。

〔著書〕 『アメリカ研究とジェンダー』(共著), 『イギリス文化事典』(共著) など。

〔訳書〕 『子ども中心ではじめる英語レッスン』(共訳) など。

高橋 愛子 たかはし・あいこ

国際基督教大学行政学研究科博士課程単位取得退学。学術博士(2003年, 国際基督教大学)。恵泉女学園大学非常勤講師を経て, 2004年4月より聖学院大学政治経済学部政治経済学科助教授。現在, 同学科准教授。

〔著書〕 『カール・シュミットとその時代——シュミットをめぐる友・敵の座標——』(共著, 風行社, 1997年)。

〔論文〕 「〈国家理性〉再考——権力と道徳という問題領域から——」 『社会科学ジャーナル』 No.48 (ICU-SSRI, 2002年), 「『シュミット問題』が投げかけるもの——『歴史学』の一つとしての政治思想史研究をめぐる一考察——」 『社会科学ジャーナル』 No.53 (ICU-SSRI, 2004年), 「〈合法性〉をめぐる二つの次元——法と政治の間についての一試論——」 (『聖学院大学総合研究所紀要』第39号, 2007年) ほか。

〔翻訳〕 H・クヴァーリチエ編 『カール・シュミットの遺産』(共訳, 風行社, 1993年), 古賀敬

太・佐野誠編『カール・シュミット時事論文集——ヴァイマル・ナチズム期の憲法・政治論議——』（共訳，風行社，2000年），C・ムフ編『カール・シュミットの挑戦』（共訳，風行社，2006年），J・タミール『リベラルなナショナリズムとは』（共訳，夏目書房，2006年）。

高 萬 松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所博士後期課程修了。博士（アメリカ・ヨーロッパ文化学）。聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『フォーサイスの神義論』（基督教連合新聞社，ソウル・2007年，韓国語）。

〔訳書〕フォーサイス『バルンキドワ ク ヨルメ』（大韓基督教出版社，ソウル・1999年）（The Soul of Prayerの韓国語翻訳）。

〔論文〕「P・T・フォーサイスにおける戦争倫理」（古屋英雄他編『歴史と神学——大木英夫教授喜寿記念献呈論文集 下巻』聖学院大学出版会，2006年），「P・T・フォーサイスとピューリタニズム」（日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2，2008年），「初期韓国教会とピューリタニズム」（日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4，2010年）。

松尾 秀哉 まつお・ひでや

1965年生まれ。一橋大学社会学部卒。東邦ガス株式会社，株式会社東海メディカルプロダクツ勤務を経て，2007年3月東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。現在，聖学院大学政治経済学部准教授。専攻はベルギー政治史，比較政治学，キリスト教民主主義論。

〔論文・翻訳〕「キリスト教民主主義政党的「調停の政治」メカニズム——ベルギーにおける初期福祉国家改革期のカトリック党の党内政治過程——」『国際関係論研究』（2000年10月），「「調停の政治」再考——ベルギー・キリスト教民主主義政党的の六〇年代——」『聖学院大学総合研究所紀要』第39号（2007年9月），「階級闘争から言語紛争へ——歴史的コンテクストにおける「統治連合」——」『聖学院大学総合研究所紀要』第40号（2008年2月），キャロル・マーシオン（松尾秀哉訳）「政党派閥と連合政権——イタリア・キリスト教民主党における閣僚ポストの配分」『レヴァイアサン』第29号（2001年秋），「コンセンサス・デモクラシーにおける『ワンマン』型リーダーの台頭」日本比較政治学会編『年報比較政治学 第10号 リーダーシップの比較政治学』，早稲田大学出版（2008年）など。

宮本 悟 みやもと・さとる

1970年生まれ。同志社大学法学部卒。ソウル大学政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。神戸大学法学研究科博士後期課程修了〔博士号（政治学）〕。日本国際問題研究所研究員を経て、現在、聖学院大学総合研究所准教授。専攻は政軍関係論、安全保障論、朝鮮半島研究。

〔共著・論文〕「国際社会の援助」中川雅彦編『朝鮮社会主義経済の現在』（アジア経済研究所、2009年3月）pp.71-87、「南北交易に対する経済動向の影響—南北交易と国際貿易の相関—」『海外事情』第57巻7・8号（2009年7月）pp.103-114、「同盟関係が南北朝鮮の全方位外交と核開発に与えた影響—〈見捨てられ〉と〈巻き込まれ〉の視点から—」『聖学院大学総合研究所紀要』第45号（2009年9月）pp.357-382など。

佐藤 貴史 さとう・たかし

1976年生まれ。2006年3月、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。現在、聖学院大学総合研究所特任研究員。

〔著書〕『フランツ・ローゼンツヴァイク—〈新しい思考〉の誕生—』（知泉書館、2010年）。

〔論文〕「瞬間と解体—H・コーエンとF・ローゼンツヴァイクにおける啓示と倫理—」（『聖学院大学総合研究所紀要』第42号、2008年）、「現実性と真理—フランツ・ローゼンツヴァイクの経験論—」（『宗教研究』第358号、日本宗教学会、2008年）ほか。

〔翻訳〕カール・バルト『十九世紀のプロテスタント神学 下（第二部 歴史）』（共訳、カール・バルト著作集13、新教出版社、2007年）、フランツ・ローゼンツヴァイク「新しい思考」（共訳、『思想』No.1014、岩波書店、2008年）、アルフ・クリストファーセン／クラウディア・シュルゼ編著『アーレントとティリッヒ』（共訳、法政大学出版局、2008年）ほか。

金子 毅 かねこ・たけし

1962年生まれ。國學院大學文学部卒。2001年3月國學院大學文学研究科博士課程単位取得満期退学。現在、聖学院大学政治経済学部ほか非常勤講師。専攻は経営史学、労務管理史、経営文化論、日本文化研究、安全学（主要テーマはsafety-firstをめぐるグローバルスタンダードの構築）。

〔著書（共著含む）〕『八幡製鉄所・職工たちの社会誌』（草風館、2003年）、「越境する『安全』の技術」『現代民俗誌の地平、第一巻（越境）』篠原徹編（朝倉書店、2003年）、「色彩なき環境からの文化創造」『産業と文化の経営人類学的研究』平成19～20年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書（研究代表者：中牧弘允、2009年）など。

〔論文〕「祭りをはぐくむ葛藤と調和」『文化人類学研究』第1号『早稲田文化人類学会、2000年〕、「殉職者はいかにして企業守護神となりえたか」『宗教と社会』第9号（『宗教と社会』学

会, 2003年), 「日本の近代化過程における「安全神話」のポリティクス」『文化人類学』第69巻第4号(日本文化人類学会, 2005年), 「日本的「安全」は救いとして感得され得るか?」『宗教と社会』第13号(「宗教と社会」学会, 2007年), 「もう一つの戸畑「提灯山笠」」『日本民俗学』第258号(日本民俗学会, 2009年), 「子供の安全をいかに守るか」『聖学院大学論叢』第22巻第2号(近刊), 「安全」と「セイフティ」をめぐる語源論的考察」『埼玉大学紀要(教養学部)』第45巻第2号(近刊)など。

田中 佳 たなか・けい

一橋大学社会学部, パリ第1大学大学院考古学・美術史研究科を経て, 2009年3月, 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。現在, 聖学院大学, 青山学院女子短期大学非常勤講師。専攻は近世フランス文化史・美術史。

〔論文〕「美術における『公衆』の誕生——1740年代後半の論争を中心に——」『一橋論叢』第131巻第2号, 日本評論社, 2004年2月, 55-73頁; 「王立美術館のメッセージ——ダンジヴィレの奨励制作とルーヴル宮美術館創設計画——」『日本18世紀学会年報』第20号, 日本18世紀学会, 2005年6月, 55-66頁; 「ダンジヴィレの奨励制作——自国史への関心と『フランス派』の形成」, 『鹿島美術研究』, 鹿島美術財団, 年報第26号別冊, 2009年11月, 183-194頁; 「ルーヴル美術館構想の萌芽——リュクサンブール宮ギャラリーの開設とその機能(1747-1750年)——」, 『一橋社会科学』, 2009年11月, 第1巻第2号, 1-13頁ほか。

〔翻訳〕『コロ展』(展覧会カタログ), 共訳, 読売新聞社, 2008年6月; 『ルーヴル美術館展——美の宮殿の子どもたち——』(展覧会カタログ), 共訳, 朝日新聞社, 2009年3月; 『ターナーから印象派へ』(展覧会カタログ), 共訳, アルティス, 2009年7月ほか。

小松崎 利明 こまつぎき・としあき

国際基督教大学大学院行政学研究科博士後期課程博士候補資格取得退学。聖学院大学, 放送大学非常勤講師。

〔翻訳〕リチャード・フォーク「平和のグランドセオリーの地平」(村上陽一郎編『平和と和解のグランドデザイン』——東アジアにおける共生を求めて) 風行社, 2009所収, 133-150頁), フィリップ・ウエスト「戦争の悲哀——その地図作製に向けて」(村上陽一郎・千葉真編『平和と和解のグランドデザイン——東アジアにおける共生を求めて) 風行社, 2009所収, 195-234頁), トーマス・J・ショーエンバウム「日本と近隣諸国との領土および海洋をめぐる紛争の解決に向けて——問題と機会」(国際基督教大学社会科学研究所・上智大学社会正義研究所編『「平和・安全・共生」の理論と政策提言にむけて』風行社, 2010所収(印刷中))。



藤掛 明 ふじかけ・あきら

1982年大東文化大学文学部卒。臨床心理士。法務省に入省し、心理技官として勤務。富山少年鑑別所首席専門官を最後に、2003年より聖学院大学総合研究所専任講師。2007年同准教授。東京神学大学、徳島文理大学大学院非常勤講師を兼ねる。日本犯罪心理学会理事、日本描画テスト描画療法学会常任理事。牧会ジャーナル編集委員。

〔著書〕『非行カウンセリング入門』（金剛出版）、『描画テスト描画療法入門』（金剛出版）、『ありのままの自分を生きる』（一麦出版社）、『雨降りの心理学』（焼焼社）など。

衣笠 詩子 きぬがさ・うたこ

2010年、聖学院大学大学院人間福祉学研究科修了。現在、日本バプテスト連盟宣教研究所職員。牧師の研修などの準備、運営に関する業務に従事している。